

第5 1回理事会 議事録

1 開催場所

札幌市中央区北5条西6丁目 札幌センタービル5階A会議室

2 開催日時

2026年1月22日(木) 13時30分から14時30分まで

3 理事総数 9名

4 出欠等の状況

理事(出席)	9名	阿部 啓二、小貫 秀治、佐藤 季規、鈴木 英一、 高田 聡、谷 一之、田村 亨、林 美香子、 山崎 弘善
監事(出席)	1名	末永 仁宏
監事(欠席)	1名	山本 眞樹夫
議事録作成者		谷 一之(専務理事)

5 定足数の報告

定刻に至り、阿部理事長が挨拶の後、理事9名のうち過半数が出席しているので、定款第41条の規定により、本理事会が成立している旨を告げた。

6 議案の審議状況及び議決の結果等

次に、阿部理事長から、定款44条第2項の規定により、議事録署名人を理事長、末永監事とする旨を告げて議事に入った。

報告事項1「2025年度事業実施状況(中間報告)について」、報告事項2「2025年度決算見込みについて」及び、報告事項3「代表理事の業務執行報告について」の件

井上及び根津の両課長より、資料1に基づき2025年度の事業実施状況について、「代表理事の業務執行報告」を兼ねて説明し、引き続き中尾事務局長より、資料2に基づき2025年度決算見込みについて説明があった。

本件に関して議長から質問、意見などの発言を求めたところ、次のとおり発言があり、事務局より説明があった。

【鈴木理事】

資料2、受取補助金500万円の内容についてご説明頂きたい。

【中尾事務局長】

北海道経済産業局が公募をしている事業に、我々が手をあげて採用となり、補助金をいただきながら、自主事業を展開している。

【鈴木理事】

(事業の実施にあたり)北海道経済産業局からは、何らかの仕様が定められているのか。

【中尾事務局長】

(補助金の採択に向け)一定の提案をしており、その提案に基づき北海道経済産業局のご指導をいただきながら、事業を進めている。

【鈴木理事】

受託事業の中で、JICA、芽室町、留萌観光協会の事業収益について伺いたい。また、JICA事業の収益は、昨年と比べてどうか。

【中尾事務局長】

JICAは1,000万円、芽室町は330万円、留萌は165万円である。

【根津課長】

JICA事業の収益については、昨年とほぼ同じだが、JICAの経費削減により若干減っている。

【鈴木理事】

昨年度は、北海道経済産業局から受託を受けていたと思うが、今年はなかったのか。

【中尾事務局長】

今年は、競争の末、他社が受託された。

【高田理事】

資料1、②の地域おこし協力隊の事業は、兼ねてよりとてもよい事業だと思っており、参考になった。地域おこし協力隊については様々な統計があり、定着率が少ないと以前伺ったことがあるが、この事業をやって、ビフォー&アフターでいうとどのくらい歩留まりがあったとか、定量的な評価があったら伺いたい。

【中尾事務局長】

昨年実施した研修においては、12人の卒業生が出て、今実際にカフェ、ゲストハウスを開業したのは（我々の知る範囲では）3人。（事業の実施にあたっては）色々お悩みになったり、行ったり来たりということがあがるが、正直ベースではこのような数字となっている。ただ今年は、非常に具体性の高いプランが出てきており、審査委員の方からも、かなりレベルが上がっていると高い評価をいただいた。今年度中に7組くらいは実際に開業できるのではないか、という勢いになっている。

【田村理事】

アクションプランが2年目の終わりに近づいているが、最近、国においては、「計画は変えるもの」という視点に大きく変わってきている。

つまり、時々状況変化に合わせて計画を進めていくと、1年でも長すぎると。例えば、社会資本整備重点計画は5年、国土形成計画は10年。それぞれに計画を作ったものの、それをどううまくこなしていったかということについては問わない、というくらいに、「計画自体が変わることが当たり前」の時代になったのだということ国は言い始めた。私自身、事業評価部会という道路の評価部会に入っているが、大事なものは、計画がどれだけ達成されたかではなく、事業をおこして、それが、どれくらい効果がでたのかという評価だ、ということに国は大きく変わった。

そのことから言うと、アクションプランが3年目の終わりに近づいてきて、さあこれから、どれくらいアクションプランの成果が出たのかというところで、国に習ってと言うと言い過ぎだが、あまりガツガツとアクションプランの計画に合っているか、達成できているか、ということに拘らない方がよいのではないかと感じる。

毎年、年度末にはこれだけ（事業を実施した）とあるが、あまりそこに拘る必要はないのではないか。計画に対する出来高というよりは、今日の報告のように、これだけ上手く行って、これくらい手応えがあった、というまとめ方でいいのではないかと、世の中は変わったぞ、ということだけお伝えしたい。

7 その他

会議次第4「その他」に入り、中尾事務局長から、資料3に基づき「地域づくり出前講

座」に、希望する理事もご参画頂くことについて説明を行い、協力を求めた。
その後、議長から出席者へ発言を求めたところ、次のとおり発言があり、事務局からの説明があった。

【小貫理事】

教育機関との連携した取組は素晴らしいと思う。今回やっている事業で、大学との関わり、大学生の巻き込みはどういうところまで行っているのか、参考までに聞かせてほしい。

【井上課長】

私は前職で、北海道教育大学で大学教員研究支援をしていたため、それがベースにある。北海道開発局も教育機関との連携は非常に重視しており、令和3年度には北海道教育委員会と、今年度は北海道教育大学と連携協定を結ぶなど、行政においては、積極的に連携協定を結びながら実施していくというやり方が多い。財団では、私と谷専務理事も色々な大学と協力関係があるので、教育機関との連携が増えている。

その後、特に発言はなく、議長が「以上をもって本日の議事は、全て終了した」と宣言し、14時30分に理事会を閉会し、解散した。

上記の議決等を明確にするため、定款第44条第2項の規定に基づき、出席した理事長及び監事は、本議事録に記名押印する。

2026年2月9日

公益財団法人 はまなす財団 第51回理事会

理 事 長 阿 部 啓 二 印

監 事 末 永 仁 宏 印